

「連環画」から「新漫画」へ：「アジアINコミック 2003——中国の漫画」に参加して

日下, 翠
九州大学比較社会文化研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/16795>

出版情報：東方. 269, pp.12-16, 2003-07. 東方書店
バージョン：
権利関係：



「連環画」から「新漫画」へ

「アジア・IN コミック 2003」——中国の漫画」に参加して

日下 翠

国際交流基金アジアセンターでは、二〇〇一年から「アジア IN コミック」シリーズとしてアジア各国の漫画文化をとりあげ、相互交流を活性化させる活動を行っている。今年は三月の八・九日に東京の国際交流基金フォーラムで「アジア IN コミック 2003——中国の漫画」と題し、中国漫画の関係者を集めて開催された。筆者もパネリストとして参加する機会を得、貴重な体験をすることができた。ここでその報告を兼ねつつ、香港も含めた中国漫画の現在を紹介してみたい。

*

1 「新漫画」（「卡通画」）・「老漫画」・「連環画」の区別について

ここでまず注意しておきたいことは、中国では日本生まれのストーリーマンガは「新漫画」或いは「故事漫画」・「卡通画」などと呼ばれ、従来の一コマ、四コマ漫画と区別されているということである。日本でも最近では「マンガ」とカタカナ表記することで、手塚治虫が創りあげたストーリーマンガをそれ以前の漫画と区別する向きもあるようだが、それはまだ社会の共通認識となっていない。しかし、中国では日本生まれのマンガは、従来のもとは異なる文化としてはつきり認識されている。おそらく八十年代に

なつてようやく「マンガ（新漫画）」と出会った彼等には、容易にそれが新しい表現形態であると理解できたのだろう。なお、最近中国では一コマ、四コマ漫画の古い名作を集めて「老漫画」と題し、シリーズで出版をしている。このいささか耳慣れぬ単語には、「新漫画」に対する「老」派の対抗意識を読み取れるのではないだろうか。

さらに、忘れてはならないことは、中国には「連環画」（一枚一画を基本とする読み物。「小人書」とも言う）という伝統文化があったことである。新漫画が入ってくるまでは、子供用の読み物として絶大な人気を誇っていたのがこれであった。

フォーラムのパネリスト・出席者は以下の通りである。

王庸声 中国東方文化研究会連環漫画分会会長（中国）。

吳輝 玉皇朝出版集团有限公司、国際部版權・制作担当マネージャー（香港）。

範生福 上海市漫画連環画芸術博物館常務副館長、連環画家（中国）。

尊子 政治・社会風刺漫画家（香港）。

湯蔚青 新漫画家。『女船王』で九七年「獅子王賞」（長編最優秀賞）を受賞（中国）。

張曉雨 新漫画家。科幻世界雜誌社「飛」編集長。代表作『海市蜃楼』『飛』（中国）。

森田拳次 マンガ家。代表作『丸出だめ夫』。社団法人日本漫画家協会理事国際

部長。

真崎春望 マンガ家。代表作『天使の料理番』『安倍晴明』『浅草ヤング妖品店』

など。北京、ソウル、台北、フランス

など各国で漫画教室を通じ国際交流を行っている。

木村忠夫 日本漫画学院学院長。司会を担当。マンガサミット開催推進等の功績により、第三十一回社団法人日本漫画家協会特別賞（二〇〇二）を受賞。

日下翠 九州大学教授、中国文学研究者。著書に『漫画学のススメ』『漫画学入門』等。

王庸声氏は中国漫画についての概説、

吳輝氏は香港漫画の現状報告、日下は中

国・香港漫画の特徴や問題点について報告を行った。

吳輝氏の話は現場での生々しい話が中心であった。香港漫画は何といっても武俠漫画が主流であるが、最近では売れ行きが落ち込んでいる。その原因は日本マンガのシェアが伸びたのもその一つであるが、香港の経済力が落ち込み、労働者やウエイターといった香港漫画の主要な読者層の購買力が落ちているのが大きいとか。現在では売れているのは昔ながらの人気作家ぐらいで、出版社は儲からないと会社をたたみ、若手漫画家もすぐに他の職業に転職してしまうという状況にある。今後は版權問題をきちんと整理し、

新刊

最も刺激的な
言語文化エッセイ！

これが漢語だ

王希傑言語文化隨筆集

王希傑 著 加藤阿幸 許山秀樹 訳

神秘的な漢字／数詞のタブーと崇拜／中国語の中の動物の世界：他、言葉とその文化背景をユーモア溢れる筆致で綴る26篇。◆2200円

近刊

異郷に永眠る悲劇の美人

堀江恭子 著

王昭君の生涯を浮き彫りにし、その上で「王昭君変文（敦煌変文）全文を読み解き、説話の形成と伝播を徹底解明する。」◆1800円

日中言語対照 研究論集 第5号

日中言語対照研究会
◆2000円

白帝社 ※価格は税別

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-1
TEL 03-3986-3271 FAX 03-3986-3272
http://www.hakuteisha.co.jp

大陸への参入を狙っているが、問題は山積みで、政府の指示に従って作品の書き直しを行わねばならない場合もある、といった状況をかなり率直に語ってくれた。その厳しさには思わずため息が出そうになったものであった。

2 博物館入りをした連環画、台頭する新漫画作家

範生福氏の話によると、八十年代に毎月百二十万部発行していた『連環画報』は、現在では二万部へと落ち込んでいる。これはテレビの影響と外国漫画に押されたためで、連環画はすでに四・五十代の「なつメロ化」しており、上海には連環画芸術博物館が作られた(範氏は副館長)。昔ながらのファンがいるため、切手収集のように連環画市場があり、良い作品は高値で取引されるという。どうやら連環画は歴史的文化となったようだ。

対照的に今回観客の人気を集めたのが、二人の新漫画作家であった。特に張曉雨氏の作品『飛』は、内向的な少年が紙飛

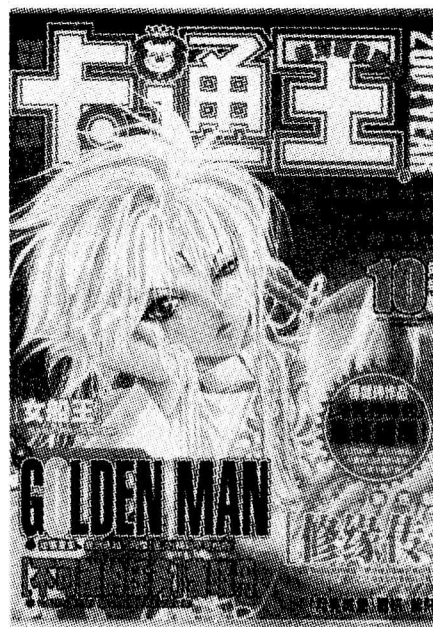
行機を飛ばしながら文革期に首吊り自殺した父のことを思い出すという内容で、その表現力が高く評価されたものである。張氏は物静かな青年で、文革のことは直接知らないで想像で描いた、とのことであったが、新しい漫画文化の担い手としてのレベルの高さをうかがわせる作風であった。湯蔚青氏の代表作『女船王』は、代々続く船主の家に生まれたヒロインの運命の重さを描くもので、少女漫画風の絵が華麗なドラマである。彼女は仲間とともに漫画スタジオを開き活動していると言っていたが、これからも優れた作品を数多く発表してゆくに違いない。彼等を始め、中国国内では優れた新漫画作家が数多く出現しはじめているが、その経済状態や社会的地位はどうなっているのだろうか。一番よく売れている月刊誌の『卡通王』(写真)で月に五・六万部というから、かなり厳しいと思われる。彼等と交流のある真崎春望氏の言によると、数年前に「漫画を描いているだけでは生活できない。このまま描き続けてい

ってよいのだろうか」と相談に来た人が、最近会ったところ「やっと漫画だけで食べてゆけるようになりました」と嬉しそうに話していたという。何とか職業として成り立つようになったらしい。話を聞いてほっとしたものであった。

だが、未だに彼等は中国の美術家協会に入れてもらえない。「彼等を入れるのに反対する人々がいる」と範氏が言っておられたが、まだ画壇は彼らを仲間とは認めていないようだ。中国のような、社会的地位が大きな意味を持っている国でこの状態はつらいだろう。彼等を支えるためにも、一日でも早くしかるべき地位が与えられるよう願っている。

3 香港漫画——その表現と内容

ここで香港漫画についてまとめてみよう。香港漫画と日本マンガの大きな違いの一つは、表現の差である。香港漫画はアメリカン・コミックスに近く、彩色をし、版が大きいのが特徴である。一コマ内の時間の経過が日本マンガよりはずつ



上海の漫画雑誌「卡通王」。表紙に「女船王」の題が見える。

と長く、読むのに時間がかかる。コマを多用し動きと音の出る、映画感覚のある日本マンガに比べるとスライド写真に説明文をつけたようで軽快さに欠ける。日本で香港漫画があまり馴染みが無いのは、この表現の違いがまず大きな壁となるか

らだろう。

内容についての特徴の一つに、青年漫画が中心で、武俠漫画が大半を占めるということが挙げられる。武俠漫画は当然「武俠小説」(金庸、古龍などが有名)を基にしている。「武俠小説は大人の童話だ」といわれるが、日本人の感覚からいえばファンタジーに近いだろう。日本で武俠小説があまり大人に読まれないのはその為かもしれない。

江戸情緒や武士道を描く日本の時代小説と違い、中国の武俠小説の根底にあるのは道教の神仙思想である。一番大きな違いは空を飛ぶことだろう。香港映画のいわゆるロープアクションがそれで、軒を飛び壁を駆け、剣を飛ばし気で敵を倒す。もはや人間の域を越えている。剣の修業を通じ人間として成長してゆく、といった日本の時代小説とは異なり、ひたすら「打打殺殺」(戦いに次ぐ戦い)を描く。両者の描く世界はまったく別のものなのである。

というわけで、香港漫画は表現、内容

ともに日本ではなじみが薄く、受け入れられにくいということになる。実際は『六道天書』(司徒劍橋)や『絶代双驕』(何志文)等、面白く優れた作品も多いのであるから、日本の読者の好みに合わせ、短くまとめるとかファンタジー性を強めて女性読者をねらう等の工夫をし、積極的に売込みを図って欲しいところである。

4 中国漫画について——新漫画の萌芽と発展

次に中国漫画について紹介しよう。中国では新聞の一コマ・四コマ漫画などは、民国以前からあったが、日本のストーリーマンガのようなものはなかった。ようやく八十年代になって、日本のアニメ(鉄腕アトム、一休さん、Dr.スランプ、ドラゴンボールなどがテレビで放映されて大人気となり、続いて新漫画が入ってきたのであった。新漫画はたちまち中国の若者達の心を捉え、テレビとの相乗効果もあいまって大流行し、九三年から九四年の間に売れた日本漫画は一億冊に達した。こ

の事態に危機感を抱いた政府は取締りを強化し、検閲を行って十一の出版社を処罰し、四千万冊あまりの外国漫画を押収、外国漫画氾濫の局面は一気に収束した(『光明日報』二〇〇〇・六・三「飛躍が期待される中国卡通」より)。続いて九五年に政府は「五・一五・五」漫画出版プロジェクトを打ち出す。これは「五つの漫画出版社を設立、一五の長編漫画を出版、五冊の漫画雑誌を発行する」プランであった。かくして中国漫画発展の準備は整ったかに見えた。

だが、それから八年経った今、成果の少なさにあせりの声も聞かれるのが現状だ。そもそも、文化を政府の指導で発展させるといふやり方は無理ではないだろうか。連環画のように党の指導の下に「民族的特色を持った教育的な」児童読み物を創り続け、全盛を誇りながらも外国漫画の流入とともにあつという間に凋落、博物館行きとなった例もある。漫画は教育手段ではなく文化なのだ。中国で新漫画が同じ道をたどることは絶対に避けて

欲しい。

今となっては手遅れだが、外国漫画が溢れた時に、それを利用して国内の出版社の育成につとめ、規制を緩和して自由な創作を促し、漫画文化を幅広く発展させる方法もあったはずである。そうすれば今ごろは、その時育った読者層が目の肥えた、レベルの高い消費市場を形成していたに違いないのだ。

これからの中国漫画発展のためには、意識改革が必要である。それにはまず、漫画家の社会的地位や収入を上げねばならないだろう。漫画家のスターを作って成功モデルとし、作品をテレビアニメ化して売り出すといった工夫も大事だ(実際にそういう例も出ているが、まだ少ない)。また中国漫画の欠点として、絵は上手なのだがストーリー作りが弱いという点が指摘されている。ならばいつそのこと中国画の技法で漫画を描く「美術漫画」をめざすのも一つの方法ではないだろうか。ともあれ、才能ある作家が多いことではあるし、中国でまもなく日本とは異なる

る新しい漫画文化が育つのは間違いない。次回の「第六回アジアMANGAサミット」は鄭州で開催される。これが中国漫画の新たな発展の機会となることを心から望んでいる。(九州大学)

■六朝学会 第九回例会

▼日時…7月5日(土) 13時～▼会場…青山学院大学 総研ビル10階18会議室(JR渋谷駅10分、地下鉄銀座線・千代田線・半蔵門線表参道駅5分) ▼発表…東晋初期の学術と文学(大平幸代)／南朝貴族制社会論(川合安)／帰葬を詠ずる詩(後藤秋正) ▼会費…五〇〇円 ▼お問合せ…〒1508366 渋谷区渋谷四一四一二五 青山学院大学 大上正美研究室 ☎〇三―三四〇九―八五九七

《お知らせ》

サマーセール図書目録および、マイクロフィルム資料総合目録(Ⅱ)が出来上がりました(無料)。ご希望の方は左記の部署までお申し付けください。

(株)東方書店業務センター 〒175-0082 板橋区高島平一―二―2 ☎〇三―三九三七―一〇三〇〇 / FAX 〇三―三九三七―〇九五五